

第 8 回 2019 年 1 月 17 日 (木)

第 8 回の一류塾では、講師に一柳塾長と松本晃氏 (RIZAP グループ(株)取締役、カルビー(株)シニアチェアマン (元代表取締役会長兼 CEO)) を、懇親会の特別ゲストには、老川祥一氏 (読売新聞グループ本社 取締役最高顧問・主筆代理・国際担当(The Japan News 主筆)) をお迎えしました。また懇親会には、一流塾特別顧問の福川伸次氏 ((一財)地球産業文化研究所顧問、東洋大学総長)、斉藤惇氏 ((一社)日本野球機構会長 日本プロフェッショナル野球組織コミッショナー、(株)KKR ジャパン KKR Global Institute シニアフェロー、前(株)日本取引所グループ取締役兼代表執行役グループ CEO)、一流塾顧問の渡邊五郎氏 (元三井物産(株)副社長) にご出席頂きました。



【講師 一柳塾長】

第 1 部では、『元気と知恵の経営』と題して、一柳塾長が講義を行いました。冒頭、先の見えない時代には、自ら仮説を持つことが重要であり、「多長本動」という 4 つのモノの見方が役に立つと話されました。そして、官僚を辞めてベンチャーを立ち上げた頃の修羅場体験と学びについて紹介した後、世界の時価総額トップ企業の変遷を基に、AI や IoT の急速な発達によりパラダイムシフトが起っていることを示すとともに、この先行き不透明な時代をチャンスととらえることの重要性を説かれました。そのうえで、他に真似されない自らの強みを磨くこと (知恵の付加価値)、成長分野を取り込むことが企業の成長につながると指摘されました。そして、これから日本企業に求められるものは、各分野の境界を越えたハイブリッドな取り組みや女王蜂のような全体最適構想力を磨くこと、自ら発信し相互理解を得るコミュニケーション力であると具体例を挙げて説明されました。終盤には、経営者は夢、情熱を持ち、知恵を絞り出して頑張ること、人間力を高めることが必要であるとお伝えいただきました。そして最後に、一度限りの人生、「明るく、楽しく、面白く」、思い切ってチャレンジして欲しいと塾生を激励されました。塾生からは、「三方よしの精神を持ち、人間力を磨き、自ら考え、チャレンジしていきたい」、「原点に立ち返って、大きな視点で夢・志について、問い直すきっかけとなった」といった声が上がりました。



【講師 松本氏】

第 2 部では、『Change, or Die !』と題して、松本氏が講義を行いました。松本氏は、冒頭、人生設計に関して「 $15 \times 5 + \alpha$ 」というお考えを、ご自身のご経歴と共に紹介され、自分が塾生の皆さんの年齢だった頃は、徹底的に成果を出す時期だったと説明されました。そして、90 年代を境に企業を取り巻く状況は全く変わり、変革なしには生き残れない時代になっている、しかし変革とは既得権を奪う事であるため、その抵抗勢力は強く、よって打破するためにはトップ自らが率先垂範で実行する必要があると語られました。続いて、経営とは、全てのステークホルダーを喜ばせ、世の為人の為に儲けることであると述べられました。そのために必要な 3 要素として、VISION、PLAN、LEADERSHIP があり、ご自身が行ってきたカルビーの変革は、「成果」に繋がる「環境」、「制度」を整え、「しくみ」、「文化」を変える取り組みであったと話されました。その中で、「権限委譲は成長の最良のツール」、「ダイバーシティと働き方改革はセット」など、いくつもの示唆に富むお話しを、実例を交えて分かり易く説明されました。柔らかながらも確固たる自信を持って語られる経営哲学に、塾生は皆引き込まれ、「時代の変化と共に会社や働き方、生き方も変革する必要性があり、その考え方が理解できた」、「実績に裏付けられた経営哲学は説得力があり、自己の組織でも実践していきたい」といった感想が寄せられました。



【特別ゲスト 老川氏】

懇親会では、特別ゲストの老川氏から『ポスト平成の日本政治』と題して卓話をいただきました。老川氏は、現在の政治家や選挙制度の特徴などについて、過去との比較や政治秘話を交えながら述べられました。そして、安倍内閣を取り巻く内外環境や 4 月の統一地方選挙や 7 月の参議院議員選挙の見方などについて、長年の政治記者としてのご経験からの鋭い分析を披露されました。政治の背景や選挙の見方などのお話に、塾生は熱心に耳を傾けていました。老川氏の卓話の後には、福川氏、斉藤氏からも塾生へのメッセージをいただき、懇親会後半は、講師・ゲストと塾生とのオープンな意見交換や打ち解けた歓談が続きました。



懇親会風景



懇親会後の塾生有志による塾長を囲む放談会では、スペシャルゲストとして政治家の先生にご出席頂きました。日本の将来を見据えた取組みを熱く語る姿に、塾生も問題意識を刺激され、熱い議論で盛り上がり、ゲスト・塾生の交流が夜遅くまで続きました。



放談会風景